
大腸がん検診

大腸がん検診（便潜血反応検査）の実施成績

東京都予防医学協会検査研究センター

2009年度の大腸がん検診の実施概況

東京都予防医学協会（以下「本会」）の大腸がん検診は、抗ヒトヘモグロビン・マウスモノクロナール抗体を利用した金コロイド凝集反応により、便中のヘモグロビンの有無を測定するIGオートHem法（免疫比色法）を用いた便潜血反応検査により行っている。採便回数は、検査委託団体、健康保険組合との契約により、1回法または2回法で行っている。

2009（平成21）年度における大腸がん検診の男女別、年齢別による総合判定結果を表1に示した。

職域健診における総受診者数は、男性22,883人、

女性11,570人の計34,453人であった。受診者数は男女ともに40～49歳が最も多く、次いで50～59歳が多かった。要精密検査対象者数は、男性では50～59歳が最も多く、次いで40～49歳が多かった。女性では40～49歳が最も多く、次いで50～59歳が多かった。

地域健診における総受診者数は、男性1,222人、女性2,174人の計3,396人であった。受診者数は男女ともに40～49歳が最も多く、次いで60～69歳が多かった。要精密検査対象者数は、男性では70～79歳、40～49歳、50～59歳の順で多かった。女性では50～59歳が最も多く、次いで40～49歳が多かった。

表1 大腸がん検診集計

		(2009年度)															
総合判定	男								女								総計
	～29歳	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80歳～	計	～29歳	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80歳～	計	
異常なし	338	3,209	7,549	5,938	3,731	588	86	21,439	229	1,817	4,018	3,181	1,360	301	44	10,950	32,389
要観察		2	5	12	17	2	3	41		2	2	7	2	3	1	17	58
要精密検査	16	136	377	451	295	47	10	1,332	8	85	199	152	64	21	4	533	1,865
要治療継続		3	8	2	4			17			1	1		1		3	20
要再検査	1	3	19	12	8			43	4	13	43	3				63	106
判定保留	1	4	2	2	2			11		2	1	1				4	15
合計	356	3,357	7,960	6,417	4,057	637	99	22,883	241	1,919	4,264	3,345	1,426	326	49	11,570	34,453
異常なし	12	144	329	186	265	151	28	1,115	27	232	632	405	471	229	29	2,025	3,140
要精密検査	2	7	26	25	14	27	5	106	6	18	33	38	24	22	5	146	252
判定保留			1					1		1	1	1				3	4
合計		151	356	211	279	178	33	1,222		251	666	444	495	251	34	2,174	3,396
異常なし	9	1,130	1,550	1,123	552	63	12	4,439	9	490	705	476	236	23	4	1,943	6,382
要観察			4	3	9	2		18			3	1			1	5	23
要精密検査	1	77	78	93	46	6	1	302	20	21	19	12	4	1		77	379
要治療継続			2	3				5									5
要再検査									10	11	3						24
合計	10	1,207	1,634	1,222	607	71	13	4,764	39	522	730	489	240	24	5	2,049	6,813
総計	366	4,715	9,950	7,850	4,943	886	145	28,869	280	2,692	5,660	4,278	2,161	601	88	15,793	44,662

要観察…腸疾患あり，主治医の支持に従って経過を観察してください。
 要治療継続…腸疾患あり，主治医の指示に従って治療を継続してください。
 要再検査…生理による影響など診断を確かめるため，再度検査を受けてください。

人間ドック健診における総受診者数は、男性4,764人、女性2,049人の計6,813人であった。受診者数は男性では40～49歳が多く、次いで50～59歳が多かった。女性では40～49歳が最も多く、次いで30～39歳が多かった。要精密検査対象者数は、男性では50～59歳が最も多く、次いで40～49歳と30～39歳の順で多かった。女性では30～39歳、29歳以下、40～49歳の順で多かった。

便潜血反応検査における年度別陽性率、精検追跡率および大腸がん発見数を表2に示した。2005年度から2007年度まで、陽性者数より要精検受診者が多かった理由は、便潜血反応検査陰性であっても問診票の症状および家族歴で複数該当するものがあれば、要精検受診者としていたためである。2008年度より問診票のみの要精検受診は廃止とした。

2005年度から2008年度までの陽性率は5.9～6.5%、平均陽性率は6.2%であり、2009年度の陽性率5.9%（総受診者数44,662人、陽性者数2,641人）と大きな差はなかった。

要精検受診者における追跡率をみると、2007年度の5.8%から2008年度は22.8%、2009年度は28.8%と大幅に増加した。これは従来本会で行っていた、要精検対象者に11施設の提携先医療機関を紹介し、精密検査の受診結果を受け取るシステムに加え、2008年6月より大腸がん追跡調査用紙と返信用封筒を追加したことによると思われる。これにより、提携先医療機関以外の医療機関で精密検査を受診した結果

表2 便潜血反応検査における年度別陽性率、精検追跡率および大腸がん発見数

年 度	便 潜 血 反 応 検 査			結 果 報 告 書			
	実施 人数	陽性 者数	陽性率 (%)	要精検 者数	追跡 可能数	追跡率 (%)	がん 発見数
2005	42,832	2,768	6.5	2,934	182	6.2	3
2006	40,660	2,552	6.3	2,643	166	6.3	8
2007	43,436	2,669	6.1	2,693	155	5.8	5
2008	44,312	2,606	5.9	2,470	562	22.8	12
2009	44,662	2,641	5.9	2,496	720	28.8	19

注 追跡率：追跡可能数/要精検者数×100

も把握可能となり、精検追跡率は上昇した。しかし、追跡可能数やがん発見数が増加しても依然として追跡率が低い現状にある。

2005年度から2009年度までの精密検査診断結果を表3に示した。診断結果については大腸がんを除いて大腸ポリープが最も多く、次いで痔核、大腸憩室症、炎症性疾患の順であった。またその他としては、黒皮症、胃炎、胃潰瘍、粘膜疾患、メラノーシス、脂肪腫、異所性子宮内膜症などが報告されている。

大腸がん検診の追跡システムに工夫を加えて2年が経過し、精検追跡可能数も増え、追跡率が上昇したが、依然として追跡率は要精検受診者の3割程度にとどまり、未把握部分が多く、問題点として残るのが現状である。今後も要精検受診者に対し、大腸がん検診精密検査を積極的に受診勧奨し、精検未受診者を少しでも減らすとともに、さらに追跡率の向上のために、より一層努力していきたい。

(文責 森 郁子)

表3 精密検査診断結果

年 度	性 別	精 密 検 査 の 診 断 結 果										計
		大 腸 が ん	大 腸 ポリープ	カルチ ノイド	大 腸 粘 膜 下 腫 瘍	大 腸 憩 室 症	炎 症 性 疾 患	痔 核	異 常 な	そ の 他	不 明	
2005	男	2	76			9	4	10	36	1		138
	女	1	18	1			2	2	20			44
2006	男	7	67			3	4	2	42	2		127
	女	1	13				2	1	22			39
2007	男	5	57			9	2	3	34			110
	女		18			2	1		23	1		45
2008	男	10	221		1	25	20	25	98	6	1	407
	女	2	56		1	8	5	21	59	3		155
2009	男	19	313		1	40	25	31	104	7	1	541
	女		67			12	4	15	67	11	3	179
計		47	906	1	3	108	69	110	505	31	5	1,785